

## 1 単元における個人目標

生徒	観点	個人目標	国語科の段階・目標・内容
ST 1年 (男)	知・技	・絵本に登場する人や動物の名前が分かる。	小1段階 (1) 目標ア (2) 内容 [知・技]ア(イ) [思判表]Cエ
	思判表	・教師の読み聞かせを聞いて、せりふや動作を模倣したりする。	
	学・人	・見通しをもって、自分からせりふを話したり、体を動かしたりする。	

## 2 授業実践

実施日：令和6年10月16日(水) 2校時	授業者	千葉 葵						
教科・単元名：国語科・「えほんをよもう～おおきなかぶ～」								
参観者：石郷岡幸子 大塚昌和 能登谷明子								
<p>★ 本時の指導目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の読み聞かせを聞いて、登場する人や動物の名前を覚えたり、せりふや動きを模倣して表現したりする。(知・技)(思判表)</li> </ul> <p>★ 本時のめあて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出てくる人や動物の名前を覚えたり、おじいさんのせりふや動きをまねしたりしよう。</li> </ul> <p>★ 本時の「適切な言語環境づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「うんとこしょ どっこいしょ」のせりふに合わせて、動作を付けながら、読み聞かせを進めていくようにする。</li> <li>・めあてや振り返りは短く簡潔に伝え、文字だけでなく、イラストを使用して提示する。</li> </ul> <p>★ 本時の「具体的に考える場面の設定と工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場する人や動物が思い出せるように、イラストを提示し、「これはだれ？」と聞いて、質問するようになる。</li> <li>・自分でイメージして話せるように、おじいさんになりきって、かぶを引っ張る体験ができるようにする。</li> </ul> <p>★ 本単元で学んだことの活用場面(具体例)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学年・対象生徒</th> <th>指導の形態</th> <th>単元名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小1年 ST</td> <td>日常生活の指導 生活単元学習</td> <td>①帰りの会「がんばり発表」 ②おはなしせんぼく(絵本の読み聞かせ)</td> </tr> </tbody> </table> <p>① がんばり発表で、今日の学習の中でがんばった学習を手話やジェスチャーで発表する。</p> <p>② 絵本の読み聞かせで、登場人物のせりふを覚えたり、動きを付けながら発表したりする。</p>			学年・対象生徒	指導の形態	単元名	小1年 ST	日常生活の指導 生活単元学習	①帰りの会「がんばり発表」 ②おはなしせんぼく(絵本の読み聞かせ)
学年・対象生徒	指導の形態	単元名						
小1年 ST	日常生活の指導 生活単元学習	①帰りの会「がんばり発表」 ②おはなしせんぼく(絵本の読み聞かせ)						

### 3 授業評価

	成 果	課 題 ・ 改善案
適切な言語環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話、動作を付けて話しているのが大半だったが ST さんが手話だけで話さないときに、話すのを待っていたのが良かった。言葉で話すことを大切にしていた。</li> <li>・絵本「だるまさんが (の・と)」は繰り返し言葉遊びができる有効な教材。本児が選べるのも実に良い。</li> <li>・教師との関係ができています。人の話を最後まで聞いて、問い掛けにきちんと答えている。基本的な態度ができています。</li> <li>・歌やダンス、絵本を取り入れていることで本児童の興味関心を引き出していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バナナ、メロンなどいろんな言葉に適切な手話や動作を付けるとさらに言葉の取得につながるのでは。</li> <li>・食べる、飲む、書く、読むなどはその行動の後に確認するなど日常的に使う。「今日はどれをやった？」などの質問をして絵カードを選ぶなど) その意味で振り返りで動作の単語を確認していくことが大切と思う。国語科でどの言葉(単語)を扱うのか検討が必要。</li> <li>・狭い学習空間でタブレット型端末を使用した学習メニューの提示は有効。その画面や絵本の文字を指差すしぐさに、次のステップが期待される。</li> </ul>
具体的に考える場面の設定と工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人物や動物の名前を繰り返し聞いたり話したりすることで覚えることができた。「おおきなかぶ」とはっきり話していた。</li> <li>・「だるまさんシリーズ」文字を指差して発声し、音韻意識。</li> <li>・登場人物をペーパーサートで提示したり、帽子やバンダナをかぶって演じたりする視覚的支援は、本児童の興味や集中力、思考力を引き出す。</li> <li>・読み聞かせ、絵カード操作、動作化で楽しく言葉を繰り返し引き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かぶを実際に抜く時、教師が孫などのイラストを付けていたが、ST さんに選択させて貼らせると良かった。</li> <li>・大きなかぶの登場人物を貼る場所が分かるように、枠をつけておく。</li> <li>・絵本の主題である、おおきなかぶを引っ張る、かぶが抜ける、抜けないを実感させるための手立てをどうするか。</li> <li>・一対一で、学んだことを全体で広げていく場面や機会の設定。</li> </ul>

### 4 本単元のまとめ

#### ★成果

ウォーミングアップで、身近な動作の言葉を取り上げて、歌に取り入れて、体を動かすようにしてきた。動作のカードを見ただけで、「聞く」「書く」など自分から発言することが増えてきた。「おおきなかぶ」の絵本の読み聞かせは、動きを入れながら絵本を読んだり、お話の歌を活用し、動作を実際体験したりしてきたことで、自分から引っ張り、楽しみながら活動に向かうことが増えた。「だるまさんシリーズ」のお楽しみでは、指差すと一文字ずつ読もうとすることができるようになってきた。文字にも興味が広がったと感じる。

#### ★課題・改善案

ウォーミングアップで、どの単語(座る、立つ、書くなどの動作の単語)を取り上げるかが課題である。また、適切な手話や動きを付けるとさらに言葉の獲得に繋がるのではないかと。かぶを抜く活動では、すぐ抜けてしまい、かぶを引っ張る、抜けない、抜けるが実感できる教材の工夫が必要だった。「だるまさんシリーズ」で一文字ずつ発声してきたことで、文字への興味関心が広がってきているので、文字の学習も取り入れていければ良かった。

### 5 「各教科等を合わせた指導」等における学んだことの活用

#### ★成果

朝の会の司会進行で、手話やジェスチャーを覚えて進めたり、帰りの会で「がんばったこと」や「楽しかったこと」を手話やジェスチャーで発表したりしてコミュニケーションのツールとして活用することが増えた。小学部行事の感想を発表する場面では手話を交えて、発表することもできるようになってきている。

#### ★課題・改善案

言葉の獲得を目指し、語彙も増やしながら、日常的に覚えた言葉を活用することが課題である。どのような場面でも活用できるように繰り返し使用していくことが必要である。

## 1 単元における個人目標

生徒	観点	個人目標	国語科の段階・目標・内容
AS 2年 (男)	知・技	・インターネットで調べたことの中から伝えたい事柄を抜き出し、文章にまとめる。	中1段階 (1) 目標イウ (2) 内容 [思判表]B アイ C ア
	思判表	・自分が書いたものを読み直し、相手に伝わるように構成を考える。	
	学・人	・新聞を作る活動を通して、文章を表現する楽しさを感じ、思いや考えを伝えようとする。	

## 2 授業実践

実施日：令和6年7月3日（水）	2校時	授業者	熊谷 祐子
教科・単元名：国語科・「スポーツ新聞を作ろう」			
参観者：高橋斉 栗田寿 高橋由布子 岩田祝子 櫻田菜保			
★ 本時の指導目標 ・文の構成に必要な事柄を覚え、相手に伝わるように文章をまとめる。(知・技)(思判表)			
★ 本時のめあて ・スポーツの楽しさが伝わる文を考えて書こう。			
★ 本時の「適切な言語環境づくり」 ・読み手を意識して取り組めるように、自分が書いた記事を読み直す時間を設ける。その際は、間違いを正したり、相手に伝わるように書いたりできているか確認できるように、「文字、助詞、句読点の位置」などのポイントを示す。			
★ 本時の「具体的に考える場面の設定と工夫」 ・めあてを意識して文にまとめることができるように、「どうしてその文を選びましたか」と発問する。			
★ 本単元で学んだことの活用場面（具体例）			
学年・対象生徒	指導の形態	単元名	
2年 AS	生活単元学習	①「元気いっぱい宿泊学習」 ②「〇〇をおもてなし」	
①宿泊学習の振り返りとして、iMovieを使用した動画を作成する。宿泊学習の活動写真から、相手の気持ち（頑張ったことや楽しかったこと）などを想像して文に表す。また、「誰が」「何を」「どうした」に沿って書く。			
②オリジナルマドレーヌの味について、味噌や甘酒を入れるなど工夫したことを相手に分かりやすく伝える。			

### 3 授業評価

	成 果	課 題 ・ 改善案
適切な言語環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書がすっきりしていて分かりやすい。</li> <li>・語尾に「です」「ます」を付けるという文章を書く上でのルールが言葉遣いでも表れて、丁寧な言葉遣いで人に伝える経験になった。</li> <li>・適度なルール設定や、人に見せるという緊張のため、学習に向かうことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問の仕方の工夫。「どうする？」の発問が多かったため、生徒の実態に応じ、具体的に考えることのできるような内容にしていきたい。</li> <li>・ASさんは意図していなくても不適切な発言をしてしまうことがある。正しい言葉への言い換えをして、丁寧な言葉遣いを伝えていきたい。</li> </ul>
具体的に考える場面の設定と工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が気付けるポイント（読み直し等）が具体的に設定されており、自分で考えるきっかけになっていた。</li> <li>・興味関心のある単元設定や課題で生徒が学習に向かうことができている。</li> <li>・個別指導だが、「この人におすすめ」と相手を意識させる活動が設定されている。</li> <li>・「楽しさ」の定義が明確になっていた。生徒も称賛されてうれしそうだった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット型端末に集中しすぎている。もう少し教師とやりとりする時間があってもよい。例えば、ヒントカードをもらうなど教師に質問に行く時間を設定する。</li> <li>・生徒同士の学び合いや発信・評価の場の確保が必要である。</li> </ul>

### 4 本単元のまとめ

<p>★成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなか学習に向かうことが難しい生徒であるが、単元の内容により、一定時間、課題に向き合うことができた。学習課題（読み直しのポイント等）も比較的難易度を下げて行ったので、取り組みやすく実態に合っていたように思う。今後は難易度をあげつつ、本人が興味をもって活動に向かえるような単元設定をしていきたい。</li> <li>・個別指導ではあるが、対友達、教師を意識させる活動内容もあり、継続して取り組んでいきたい。</li> </ul> <p>★課題・改善案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返しの活動で、流れは分かっていることもあり、淡々と学習が進んでしまったように思う。少しずつ難易度を上げる中に、考えさせる発問や、難しいときは教師にヒントを求める場面など取り入れ、学びの場となるようにしたい。</li> <li>・不適切発言に対する指導は、楽しさもあるが、他生徒への影響があるので、取り組んでいかなければならない課題である。教師の基本姿勢として、適切な発言を的確に取り上げて称賛することで本人の自信ややる気を引き出し、根気強く継続していく中で、不適切な発言にも目を向けることができるようにしていきたい。</li> </ul>
--

### 5 「各教科等を合わせた指導」等における学んだことの活用

<p>★成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人に対して、肯定的に捉えることが難しい場面があるが、相手を意識した活動を国語科で取り入れたことで、相手の気持ちを想像して言語化することができた。</li> <li>・感想を話したり書いたりすることがまったくできなかったが、短い文ではあるが、マドレーヌの味を記入したり、作業学習日誌に振り返りを書いたりできるようになってきた。</li> </ul> <p>★課題・改善案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画編集では、「楽しかったー」「布団の準備中…」などテロップとして表現することが多かった。また、単元の中で難易度を下げて学習課題を設定したため、「何を」「どうした」の表現まで至らなかった。次の課題設定として、取り入れたい。また、生活単元学習では、集団も大きくなりなかなか課題に向き合えないこともあるため、場面設定を工夫し、国語科で学んだことを生かせるようにしていきたい。</li> </ul>
--

## 1 単元における個人目標

生徒	観点	個人目標	国語科の段階・目標・内容
TR 1年 (男)	知・技	・体の動きを表す形容詞の意味を二つ理解する。	中1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ア (ア) [思判表]A イ
	思判表	・映像を見て、体の動きを表す形容詞を、一覧表から選んで文をつくる。	
	学・人	・形容詞を用いて、物事の様子を詳しく伝えようとする。	
KM 2年 (男)	知・技	・体の動きを表す形容詞の意味と使い方を理解する。	中1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]イ (ア) [思判表]A イ
	思判表	・映像で見た体の動きを、一覧表から形容詞を選択して文に表す。	
	学・人	・物事の様子を詳しく伝えるために、形容詞を使って伝えようとする。	
TN 2年 (女)	知・技	・体の動きを表す形容詞の意味と使い方を二つ理解する。	中2段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ア (オ) [思判表]A ウ
	思判表	・一覧表から形容詞を選び、太鼓を叩く様子が分かるような文をつくる。	
	学・人	・形容詞の重要性に気付き、太鼓を叩く様子を実況中継しようとする。	
NY 2年 (男)	知・技	・体の動きを表す形容詞の意味と使い方を理解する。	中2段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ア(オ) [思判表]A ウ
	思判表	・映像を見て、体の動きを表す形容詞を一覧表から選択して文をつくる。	
	学・人	・形容詞の重要性に気付き、抑揚をつけて太鼓を叩く様子を実況中継することで、伝える喜びを知る。	
ID 3年 (男)	知・技	・体の動きを表す形容詞の意味を二つ理解する。	小3段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ア(エ) [思判表]A ウ
	思判表	・一覧表から形容詞を選択して文をつくる。	
	学・人	・抑揚を付けて実況中継し、太鼓を叩く様子を伝えることで、伝える喜びを知る。	
OA 3年 (女)	知・技	・形容詞と形容動詞の違いが分かる。	高1段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]ア (エ) [思判表]A エ
	思判表	・形容詞の語尾を変えて文をつくる。	
	学・人	・形容詞を用いて、物事の様子を詳しく伝えようとする。	
SY 3年 (男)	知・技	・形容詞と形容動詞の違いが分かる。	中2段階 (1) 目標イ (2) 内容 [知・技]イア (エ) [思判表]A エ
	思判表	・形容詞の語尾を変えて文をつくる。	
	学・人	・考えた文をもとに、抑揚をつけて実況中継することで、伝える喜びを知る。	

## 2 授業実践

実施日：令和6年7月12日（金）2校時	授業者	水平 和志
教科・単元名：国語科・「表現の幅を広げよう～いざ実況中継～」		
参観者：栗田寿、佐々木奈織、能登谷明子、小玉智彦、樋渡峻、高橋由布子、高橋彩樹		
★ 本時の指導目標 ・体の動きを表す「美しい」「力強い」「高い」などの形容詞の意味や使い方を理解する。		
★ 本時のめあて ・体の動きを、形容詞を使って表そう。		
★ 本時の「適切な言語環境づくり」 ・動きを表す形容詞が分かるように、形容詞の一覧表を画面に映して提示する。 ・場面や状況に応じた形容詞の適切な使い方を理解できるように、一覧表から選んで形容詞を記入する穴埋め式のプリントを用意する。 ・表現力を養うために、抑揚をつけて実況中継をする場面を設ける。		

<p>★ 本時の「具体的に考える場面の設定と工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発想力を養えるように、言語を使ったゲーム（ウォーミングアップ）をする場を設定する。</li> <li>・映像を見て、一覧表から形容詞を選択する場面を設ける。</li> <li>・形容詞を使うイメージが沸きやすいように、太鼓演奏の様子を撮影した動画を用意する。</li> </ul>		
<p>★ 本単元で学んだことの活用場面（具体例）</p>		
学年・対象生徒	指導の形態	単元名
3年生・ID、OA、SY	生活単元学習	「いざ開店！」～7人のオモウマイ店～
<p>・高等部2年時に地域の食材を使って自分たちで考えた二つのレシピをもとに調理し、地域の食堂を借りて料理を提供する。接客の際に、自分たちで考えたレシピの工夫した点やおすすめのポイント等を形容詞を使って分かりやすく伝える。</p>		

### 3 授業評価

	成果	課題・改善案
適切な言語環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例として形容詞の一覧表を提示したことで、考えることに苦手意識がある生徒も意欲的に学習に取り組んでいた。</li> <li>・考えが浮かばず悩んでいる生徒に対して、「一覧表から選んでいいですよ」と実態に応じた言葉掛けができていた。</li> <li>・表現の幅を広げることが、自分たちの生活を豊かにすることを伝えていた。</li> <li>・板書の内容とプリントの構成が一致しており、分かりやすかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてが活動内容に近い表記になっていたため「～を正しく使って表そう」「～な表現を考えよう」などの表記にすると、まとめにつながる。</li> <li>・生徒が考えた言葉が擬音語や擬態語が多かったため、形容詞の理解につながっていたか疑問が残った。</li> <li>・学習のポイントである形容詞について、事前に学習したり、板書で示して確認したりして、理解を深める必要があった。</li> </ul>
具体的に考える場面の設定と工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入におけるウォーミングアップが生徒の学習に対する意欲を向上させ、その流れがその後の授業の展開に効果的につながっていた。</li> <li>・自分たちが取り組んでいる太鼓演奏を題材に取り上げ、普段の学習や生活に生かせるような設定を行ったことで、実況中継において、言葉をイメージしやすくなった。</li> <li>・授業の流れが固定され、生徒が見通しをもって授業に臨んでいた。</li> <li>・授業のテンポがよく、意欲が持続していた。</li> <li>・穴埋め問題を全員で考えて話したり、それについてイメージを膨らませられたりするよう、教師が効果的に言葉掛けしていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実況中継については、生徒たちが意欲的に取り組んでいたが、動きに合わせたシンプルで瞬発的な表現が必要になるため、形容詞の理解や活用に結びつけるには少し難しい内容であった。</li> <li>・実況中継は瞬発力が必要である。瞬時に物事を理解することが難しい生徒には、動きを部分的に切り取ることや、生徒同士ペアを組んで活動するなどの工夫が必要である。</li> <li>・日常に使われている形容詞や、便利な形容詞を使って例文を作る活動でもよかったのではないかな。</li> <li>・形容詞を用いて考えた表現を板書して記録するなど、共有・評価する場面が必要であった。</li> </ul>

#### 4 本単元のまとめ

##### ★成果

- ・太鼓演奏を単元の題材として用いたことや、実況中継を学習の手段として選択したことは、生徒の意欲を持続させ、主体的に学ぶ上で、有効であった。
- ・学習プリントの内容を、ロイロノートを活用して示したことで、生徒が見通しをもちやすくなり、学習内容を理解することにつながった。
- ・形容詞の一覧表は、太鼓演奏における体の動きを言葉で表現する上で有効だった。

##### ★課題・改善案

- ・本時の授業において、実況中継は誰に対して行っていたか、生徒は「分かった」ことを実感できたか、疑問が残った。何ができればいいのか、めあてや個人目標を含めて明確に設定するべきである。
- ・形容詞の理解について、実況中継という手段と関連させて理解に結びつけるには、難しい内容であった。

#### 5 「各教科等を合わせた指導」等における学んだことの活用

##### ★成果

- ・せんぼくいきいきショップやせんぼくいきいき5デイズにおいて、自分たちから言葉を掛け、会話をする場面が見られるようになった。授業の導入で行ったウォーミングアップ（擬音ゲーム）の経験を生かして、言葉が出てこなくても、擬音を使った自分なりの表現で地域の方や観光客との会話を楽しんでいた。

##### ★課題・改善案

- ・実況中継を手段として形容詞の一部を様々な場面で使えるようになることを目指していたが、地域や観光客と関わる中で、すぐに学んだ語句を活用するには至らなかった。ただし、実践的な学習を通して失敗と成功、いずれの経験も重ねることで人と話すということに対する自信を深められたことは確かである。擬音を使って相手との会話ができるようになってきており、学んだ語句を実際の場面においても活用できるような、より実践的な授業及び指導内容の工夫をしていくことが、今後の課題である。